

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472700277		
法人名	社会福祉法人 永楽会		
事業所名	グループホーム そよかぜ	ユニット名	
所在地	宮城県黒川郡富谷町富谷字桜田1-11		
自己評価作成日	平成 24 年 10 月 11 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームそよかぜは「とうみやの杜」の敷地内に位置しています。広い敷地内は、緑が多く散歩には最適な環境です。他施設との交流を図りながら、交通安全運動や地域の行事等に参加し、地域の一員として生活が出来るよう地域の方の顔馴染みの関係を大切にしています。又、リハビリや余暇活動の充実を図る事で安心して「その人らしく」生活が出来るよう支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

富谷町から提供された広大な敷地に総合福祉エリアとして設置し、その中の一角に「グループホームそよかぜ」がある。各サービス事業所と協力、連携もあり恵まれた環境にある。入居者は会話も多く和やかにリビングで過ごしている。理学療法士によるリハビリを取り入れリハビリ委員会を中心に実施している。「入居者9名、職員9名をローテーションで配置し十分なサービスを提供しているが、入居者のケアにあたるスキルが問われ、各職員が目標をもって仕事に従事していくことが求められている。」と施設長からの言葉があった。これからも入居者の出来ることを引出し、職員一丸となり取り組みたいと意欲的であり、期待したい。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成24年11月2日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **そよかぜ**)「ユニット名」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	とうみやの杜の理念に基づき作成しそれに基づき支援を行っている。また、所内に掲示しており日々確認できるようにしている。	そよかぜ独自の理念3項目を掲げ、職員の意識統一を図るべく掲示している。定期的な会議で話合っている。又、新年度の事業計画で職員全員で振り返り日常のケアの振り返りとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交通安全街頭指導や秋祭り、地域の祭りに参加し交流を持てるようにしており、地域の生涯学習活動にも参加できるよう送迎をしている。	11年続いている交通安全指導の参加で子供達との会話を楽しんだり、町内の「七宝の会」に参加している。又、町主催の地域福祉フォーラムには地域住民の参加もあり、ホームのピーアールの場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の交流を通し認知症への理解や支援の方法を地域の方々に向けて伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を持ち、利用者の状況・取り組みについて報告・話し合いを行い、そこからの意見をサービスの向上に活かしている。	震災時1回抜けたが定期的に開催している。ホームの状況報告や、行政、地域区長からの情報提供が主である。入居者、家族からの要望で入居者みんなで定義山に出かけた。知見を有する方に呼びかけていきたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告書、推進会議、電話での状況報告をしており、場所も近隣である事から時折助言を頂いている。	同敷地内にあり、入居者の見守り等協力的である。更新の手続きが主になるが、地域の入居者を市から紹介され、受け入れたことで本人の状況が改善し、本人、家族から大変喜ばれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年杜の風で研修が行われており、各職員が受講し個々の状況に応じて身体拘束を行わない支援を工夫している。	法人主催の研修の他に、ヒヤリハット、事故報告書をもとに定期的にホーム内研修を開きケアにあっている。職員は入居者の状況を把握し、その行動を共にしている。玄関の施錠はない。「何かの時は居室からすぐ出られるんです」と入居者より聞かれた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年杜の風で研修が行われており、各職員受講し虐待を行わない支援へとつなげている。」		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	杜の風で行われる研修に参加し、学んだことをケア会議において共有するように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や申し込み・入居時に説明を充分に行い理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話などで積極的に話しを聞き、ケア会議等で話し合っ、運営に反映させるように努めている。	面会時に入居者の状況を伝え、意見等を聞いている。居室の臭いを指摘され、話し合いを持ち、排泄の処理が不十分と知り、改善に取り組み解消する等、家族、本人の意見に耳を傾け早急な対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のケア会議等で職員の意見を取り入れ、反映させる様にしている。	役割を担当制にする事で会議の内容も活発になり職員はケアする姿勢に責任感が出てきた。アウトカムにも表れている。ホームに異動し2年目を迎えた職員もコミュニケーションを多く取るようになった等話していた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で協議し、努力している。又、職員の能力を考慮したうえでその能力が発揮できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成・研修企画検討委員会を設置し、育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム会議を行ない、開催場所を輪番などとし、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の生活の中においても利用者が何を求めているのか、何をしたいのかじっくりと聞き取り、安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時から折に触れ意向や相談事を伺い、あった際にはじっくり話を聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中から現状や何を求めているのかを見極め、サービスに活かせるように努めている、		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や洗濯物の干し方などを一緒にいき、生活を共にしている事を感じてもらおうように努めている。又、会話する機会を多く持ち、信頼関係を築けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出・外泊、電話で話せるような環境を作り、互いに支え合う関係を保てるよう努めている。特に面会の際は積極的に家族と向き合うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋等行きつけの場所に出かけたり知人が気軽に訪問しあうことが出来るような環境づくりに努めている。	定期的な家族の面会と、時々知人が訪ねてくるが本人がわからないことがある。ホーム内では入居者の関係作りに職員が仲介し、席の配置に配慮している。又、業者の方と馴染みになり来訪を楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個人個人の特徴を捉え、互いが支え合う仲になるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了以降も気軽に相談に応じたり、訪問して頂けるような環境づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的に各利用者主体の支援に努めているが、意思表示などが困難な場合は家族と相談した上で支援を行っている。	外出の好きな方には、その機会を作り、職員の声掛けや家族の協力を得たり、本人の思いをこの人はこうだと決めつけることなく引き出しながら、計画書に反映し、その思いを支援していこうと努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活習慣や環境を本人、家族に聞き、趣味等を日々の生活の中に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活記録を作成し、日々の状況把握に努めている。又、入居者が出来ることを担当職員、家族と話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が中心となり、入居者や家族の意向を組み入れた介護計画を作成している。ケア会議等で定期的にモニタリングも行っている。	担当した職員が24時間フルタイムにまとめ、それをアセスメントの為の情報収集シート151に記入し計画書に反映させる。それを会議で検討し、家族に説明し同意を得ている。入居者の状態も落ち着いておりあまり変更がない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録を作成し、職員間で話し合いながら日々の状況把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の体調不良の変化で対応し、困難な事例が生じた際には他事業所や支援センターに相談するなどして解決に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物、ドライブ等に出かけ、日々の楽しみを持って頂けるように努めている。町の健康診断を受けたり、町発行の広報誌に目を通している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前よりのかかりつけ医への受診を家族の協力で受診している。状況に応じて職員が付き添い主治医と相談をしている。	協力医に2か月に1回定期通院し、薬は職員が取りに行っている。専門医は家族が付き添い、情報はその都度記録して渡している。法人の施設に週1回の往診があり、状況に応じて相談し対応も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師資格のある職員を中心に、日々の健康管理を行っている。急変時、処置等は隣接の特養の看護師に相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な状況を提供し、入院状況の伺い・経過の聞き取りをこまめに行っている。又、施設の嘱託医への協力を要請している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と面談をし、家族を交えた上で今後についての話し合いを行っている。	グループホームの主旨は何か。家族、施設との連携、ハード面、医療との連携等に課題がある。目標達成計画に具体的に4項目を掲げ、看取りに向けた準備に取り掛かった。職員研修向けに外部の医師、講師を招き勉強会を始めた。	家族、入居者の意向確認、事業所としてできる事、できない事、家族の協力体制、協力医、主治医の連携等については継続し取り組んでいくとしており期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急講習が行われている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。入居者個々の急変時対応をケア会議で話し合っている。	ホーム独自で2回、法人全体で1回の計3回、いずれも夜間想定で実施している。他に年1回、総合訓練で行政、町内会、法人(各サービス事業所)の参加での訓練がある。食材、燃料等備蓄の見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	先人への経緯を持った上で、一人一人に会った声掛けや支援を工夫している。傾聴することに心掛けて入る。	排泄、入浴時の際の声掛けに注意し対応している。部屋に入る時はノックをして目的を話し入室する等の配慮を行っている。居室にこもりがちの方には、職員と家族の協力の下、その状況に合った対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思が表し易いように声掛けや物の提示などを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人のペースを大切に、一日を楽しく希望に沿った安心した生活ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じ散髪に行ったり、好みの整髪剤や化粧品を用意するなどの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しみながら食事が出来るよう行事食、外食を取り入れている。食事の準備(野菜切り、味付け)や後片付けを一緒に行っている。	食彩委員会が献立を作成し、入居者の出来ることを職員と一緒にしている。ちらしずしのリクエストがあり月1回食卓に出る。他に行事食、収穫祭等楽しみな企画も多い。尚、栄養士の専門的な助言等をお願いしたい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を生活記録に記録し、状況・状態に応じて支援を行っている。毎日の献立には多種類の食材を使用するよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床・就寝前に口腔ケアの支援を行っており、一人で可能な方は声掛け・見守り確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録から個人個人のパターンを把握し、日中は布製下着の着用を心掛けて、排泄支援を行っている。	入居者の多くの方はトイレでの排泄で職員は見守り、排泄時間を見ての声掛けの支援である。夜間帯は入居者により、安眠重視の方もいるが時折、声掛け、見守りにて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分、リハビリ等の運動の他、下剤処方での対応など個々人の状況・状態に応じて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意向を聞き、ゆっくり楽しめるよう支援を行っている。	毎日の入浴を可能としているが2日に1回を平均とし午後3時頃から夕食前にゆっくりと入る方が多い。好きなテレビ番組の時間をさける等柔軟に対応している。一般浴槽などで重度の方は職員2人対応である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況・状態に応じて昼寝をしたり、夜間帯は睡眠を妨げないよう物音などに配慮している。寝具についても週に一度洗濯をし気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の為、服薬支援の際一人ずつ名前を確認し、細心の注意を払い服薬の支援を行っている。症状の変化については、職員間で情報を共有し確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備の手伝いなど役割を持てるようにし、趣味や外出の機会を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、ドライブ、定義山など希望に沿って外出し、四季の風景を楽しんでいたような支援を心掛けている。	広大な敷地にあるホームなので、四季によって目的があり日常に自由に散歩ができる。又、家族、入居者の希望を取り入れて定義山、松島、ひまわりを見に三本木等、近隣の名所に出かけている。家族の協力で外食、美容院、自宅へ行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じ金庫に預かる他、希望によって手持ちで持ち返るなどできる限り自分で管理が出来るよう支援している。金庫にある場合も要望によって購入したい物がある時など出し入れを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は居間や玄関を入れてすぐ等何時でも掛けられる場所に設置している。掛けられない方には職員が対応している。また、時々手紙や年賀状も出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花や植物を多くし、絵を飾ったりするなどして家庭的な暖かみを工夫している。	東南に位置したりビングは終日光が差し込み、明るい。小上がりの畳に火燵でテレビを見ながら寛いでいる方、フローリングの所ではテーブルを囲み、それぞれ思い思いに過ごしている。適温、湿に管理され、レトロな茶箆筒が心地よさを醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごせるような開放的な空間を作ると共に、腰掛ける場所を多く配慮する事で、気の合う入居者同士が談話されている。家族の面会時には好きな場所でお茶を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が以前使用していた家具や仏壇などを持ち込み、居心地の良い、安心した生活が出来るよう家族に働きかけている。	畳の敷かれた居室には、クローゼットと洗面台が設えてあり、整理ダンス、卓袱台、衝立、下駄箱、テレビ、冷蔵庫を持ち込み、遺影、家族の写真等を飾り、居心地の良い居室作りをしていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手摺りを設置、自室入口には表札を掲げている。カレンダーめくりを日課にされている入居者のために位置を工夫したり、生活に必要な物を直ぐ取り出せるよう工夫している。		